

着任のごあいさつ

林産試験場長 松尾 博

4月1日付けで林産試験場長に就任しました松尾でございます。
よろしくお願いいたします。

さて、林産試験場は昭和25年に旭川市において設立され、現在に至るまで一貫して北海道の林産業を支援する機関として、研究・普及活動を行ってまいりましたが、試験場が「還暦」を迎えた平成22年には大きな機構改革により、(地独)北海道立総合研究機構の一員として新たなスタートを切ったところでございます。

昭和25年と言えば、想像の域を出ませんが、敗戦の影響がまだ色濃く残っていた時期であり、国力もきわめて弱く、資源を外国から輸入することもままならない時代であったと思われます。このような中、北海道の貴重な木材資源は日本の復興に大きな役割を果たしたことでしょう。その後、日本は急速な経済発展を遂げ、木材産業は製材はもとより、合板、集成材といった木質材料の優等生を筆頭に様々な加工品を市場に供給してきました。林産試験場は、時代のニーズに応じ、北海道の木材加工技術を広く支援してきたものと自負しております。



時代の変遷とともに、森林・木材を取り巻く状況も変化してきました。木材の需給構造が大きく変わる中、道内人工林資源の充実に対応する木材加工技術の高度化が必要不可欠のものとなっています。さらに「安全・安心・快適」といった時代のキーワードに代表される高付加価値な木材製品、木質構造物も強く求められています。また、環境保全意識の高まりとともに、木材自体も環境財であるといった考え方にに基づき、バイオマス利用など森林資源の総合利用が大きな注目を浴びようになりました。林産試験場は、これらの課題に適確に対応すべく実用研究に取り組んでまいります。

さて、時代の移り変わりや経済状況の変化は、世界的な広がりを持つとともに、そのスピードは加速度的に増大しています。時代の変化に鈍感な企業は生き残るのが大変難しい状況になってきています。林産試験場も皆様方とのおつきあい等を通じ、変化に対応できる敏感な組織を目指すとともに、木材産業に携わる方々、道民の方々に、頼られ、必要とされ、そして強く支持される林産試であるよう努力してまいりたいと考えております。

皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。着任のご挨拶といたします。